

風しん予防接種説明書について

(1) 風しんについて

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によっておこり、発しん、発熱、首や耳の後ろのリンパ節腫脹等が、主症状です。その他、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などの合併症を併発することがあります。また、妊婦が妊娠初期に風しんにかかると先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の白内障、心疾患、難聴、発育発達遅延等の障がいが生じる可能性があります。

(2) 予防接種の効果

予防接種により95%以上の人が風しんウイルスに対する免疫を獲得することができますと言われています。

(3) 予防接種の副反応

主な副反応は、発熱、発しん、発赤、はれ、しこり、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれん等です。まれに、アナフィラキシー（全身のアレルギー）、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれん等が報告されています。

(4) 予防接種を受けることができない方

- ①明らかな発熱（37.5℃以上をいいます）している方
- ②重篤な急性疾患にかかっていることがあきらかな方
- ③この予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシー（全身のアレルギー）を起こしたことがある方
- ④その他、医師が不適当な状態と判断した場合（上記①～③に当てはまらなくても医師が接種不適当と判断した場合は、予防接種を受けることができません）

(5) 予防接種を受ける際に、医師とよく病気の相談をしなくてはならない方

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液などの基礎疾患がある方
- ②過去に予防接種後2日以内に発熱、発しん、じんましん等のアレルギーと思われる異常が見られた方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断がなされたことがある方及び近親者に先天性免疫不全の方がいる方
- ⑤この予防接種の接種液に含まれる成分に対して、アレルギーを起こす恐れがある方

(6) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②予防接種後に接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしてください。
- ④接種当日は、いつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や過度の飲酒は避けましょう。

予防接種健康被害救済制度

定期的な予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会で審議し、予防接種によるものと認定された場合は、予防接種に基づく給付を受けることができます。